

レポート#5: インターネットという手法

長坂 由佳さん（アンカーコム株式会社）

2012年5月17日

野寺香織（レビー小体型介護家族おしゃべり会mgr）

母がレビーの診断を受けた当時(5年前)は、一般にはレビー小体型認知症という言葉すら“認知”されていなくて、ネット検索しても具体的な情報が乏しく、レビー介護者のブログを見つけたときは夜を徹して読み通したものです。昨今では、レビーがメディアで取り上げられることが増え、専門家の書籍も続々と発行されており、個人の介護ブログも沢山(本当に玉石混交!)あります。ネットからレビー情報を得るということでは質量ともに、雲泥の差があります。

私たちの「レビー介護家族おしゃべり会の活動」を発信するためのホームページやブログは3年ほど前に作りました。いささか、素人っぽくて、魅力的なサイトとはいえないのですが、これを手直しするのも結構テマクいで、私がやりますという余裕のあるメンバーもいないというのが実状です。

個人的には、自分のことを「不特定多数に発信する」のがいやで、個人ブログ(日記)は自分のPC内止まり。実名原則のFacebookも躊躇しているという体たらくです。この考え方は、時代に遅れているのでしょうか。

長坂さんのお話をうかがいながら、こんな私に何ができるだろうと思いつつ、私たちのやっていることを整理してみました。

何のために? レビーの介護家族の声を届けたい。

どうする?

ホームページ、ブログも一応持っているけれど…

私たちの活動の原点は「おしゃべり会」で 直接仲間同士で 話し合う場をつくること。

もちろん、介護で出かけられる余裕のない人も多いため、ブログやホームページでの情報も大切。

ターゲットは?

① レビーの介護家族の方たち。

② 介護や医療の人たちにも

「家族はこんなことに悩んでいます」という実態を知ってもらいたい

(実際には、それ以前にレビーそのものについて知識がなさすぎる場合もあり、そのために私たちの目を通したレビーとはという情報も載せている)

ペルソナ:(企業秘密ではありません!)

① 家族がレビーと診断されたばかりで、レビーの様々な症状やこれからの対応に不安を感じ、戸惑っている人

② 介護を続けていてそれなりの経験もあるけれど、日々の対応に疲れレビーを分かり合える人と話したい人

コンテンツ:

介護仲間の悩み、嬉しいこと、困っている事、ちょっと気になる事を届ける。

レビーに関する情報を得られる講演会、勉強会、などの情報を伝える

コンセプト: あなたは一人ぼっちではありません。仲間がいます。

長坂さんのDIPEXの「体験者の語りを見る・聴く」活動の説明のなかで、映像で本人が語ると「情報の入ってき方が違う」と話されていました。これだ!と思いました。

同じレビー介護の話しでも、徹頭徹尾、家族の視点で話すことは、本を読んだり、講演会を聞いたり、医者から説明されたりすることとは別の情報の入り方をするのでしょうか。だから、おしゃべり会を続けていられるのかもしれませんが。

これを目標にホームページを改変するとなると… 誰か助けて~と言いたくなりますが…

私たちの活動の原点は、介護家族どうしが、共感をもって、様々な情報を受け止め、その内容を消化できるようにすることだと あらためて思いました。ありがとうございました。